

第2回琵琶湖・淀川流域市町村長懇談会 結果概要

日時:平成19年11月6日(火)10:00~12:00

会場:コラボしが21

出席者:目片大津市長、獅山彦根市長、川島長浜市長、津村安土町長、山口竜王町長、南部湖北町長、北村高月町長、二矢余呉町長、橋本城陽市長、牟礼八幡市長、佐々木南丹市長、真鍋大山崎町長、前田宇陀市長、窪田山添村長、今岡伊賀市長(代理)、山田守山市長(代理)、國松栗東市長(代理)、中嶋甲賀市長(代理)、海東高島市長(代理)、中村東近江市長(代理)、山内虎姫町長(代理)、西口守口市長(代理)、大塩川西市長(代理)、

【治水対策について】

- ・ 治水は国の最大の責務であり、責任を持って早期に河川整備を進めることが第一である。水源地も含めた流域全体でも治水に取り組んでいくべきだ。
- ・ 本支川、上下流の治水のバランスは重要であり、上流・中流・下流の均衡のある整備を進めて欲しい。そのためには、上流部のダムは有効な方法であるため、早期の建設が必要。
- ・ 明治29年のような災害を想定する際には、上流と下流の利害調整について、こういう事態になったときにはこうなのだというものをはっきりさせておく必要がある。
- ・ ダムの代替案として遊水地は効果があるといわれているが、下流で効果を期待するのであれば、受益を受ける下流から援助できる制度を考えて欲しい。
- ・ 下流部の整備が済むまで、狭窄部の開削には着手しないのではなく、部分的な開削も計画に含めて欲しい。
- ・ 既設のダムでは、狭窄部の開削を前提にダム計画を受け入れた経緯があることを認識すべき。
- ・ 早期に堤防補強を進めることができる予算の確保が重要である。危険度の高い箇所での改修を進める予算措置をお願いしたい。
- ・ 内水対策についても明記してほしい。
- ・ 琵琶湖自体の洪水調節機能、渇水対策機能についても十分評価すべきである。琵琶

湖に流入する川に関する考え方を整理して欲しい。

【河川的环境・利用等について】

- ・ 河川空間は多面的な意味をもっており、都市の唯一のオープンスペースであるので自然空間とスポーツ利用の両面からその役割を考えてきちんとした計画をもって整備して欲しい。
- ・ 市民に河川を愛して欲しいというなら、親しみのある河川行政をお願いしたい。
- ・ 安心・安全等防災上の観点から上流までの舟運について考えて欲しい。
- ・ 渇水対策容量が琵琶湖周辺のダムはどこにもない。琵琶湖の能力だけを考慮しているが水位低下による南湖の環境への影響を考慮すると琵琶湖の上流で渇水対策容量を確保することが必要。
- ・ 異常気象に伴った断水の発生が危惧されるので、このための対策も視野に入れてほしい。

【その他】

- ・ 懇談会の意見をまとめて、意見書として国土交通省に提出したい。

※この結果概要は、当日の議論をもとに速報版として事務局でまとめたものです。